

東京・馬場下町遺跡

新築に伴う事前調査として実施された。その結果、標高九・七mで水平に広がる小礫を含む第一面と、北側に下る地山面の第二面が確認された。第一面は幕末から明治時代初頭まで、第二面は一七世紀による。

第一面は幕末から明治時代初頭まで、第二面は一七世紀による。この地はもともと臨済宗妙心寺派済松寺領であり、延享二年（一七四五）に寺社奉行町奉行支配下から町奉行の管轄に入り、

1 所在地 東京都新宿区馬場下町

2 調査期間 二〇〇一年（平13）一月～三月

3 発掘機関 株式会社大成エンジニアリング

4 調査担当者 小野真美

5 遺跡の種類 町屋跡

6 遺跡の年代 江戸時代

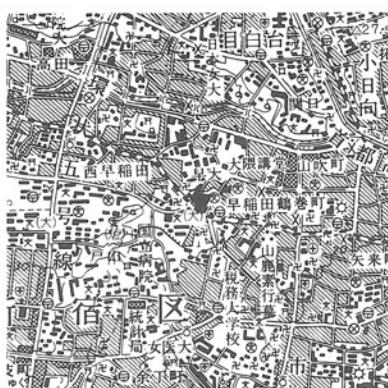
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

馬場下町遺跡は新宿区北部の戸塚地域、神田川の南岸約六〇〇mに位置する。神田川の北岸は急斜面であるが、南岸には沖積低地が

広がり、台地から低地へと緩やかに傾斜している。本遺跡はこの緩斜面末端の低地に立地する。そのため、

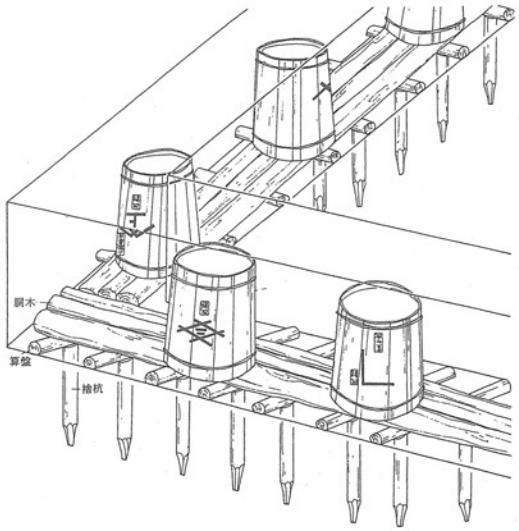
検出遺構は、第一面では土蔵・井戸・下水遺構・溝状遺構・埋桶・土坑・小穴、第二面では建物・埋桶・柱穴列・土坑・柱穴・小穴、このほか、貝類・材集中範囲も確認されている。遺物は陶磁器類・土器・炻器・木製品・自然遺物などが出土している。

土蔵跡（二二号遺構）の基礎に使用された柱受けの樽に文字が確認された。これは、「樽地形」と「算盤地形」と呼ばれる、軟弱地盤に重量建築物を設ける際にとられる基礎工法であり、樽は全部で一五基検出されている。攪乱により破壊されたものもあるが、おそらく二〇基あつたと思われる。一五基中一二基の側板・蓋板に墨書きや焼印が確認された。ここでは、墨書きのある五基のうち、釈読できた三基を紹介する。



(東京西北部)

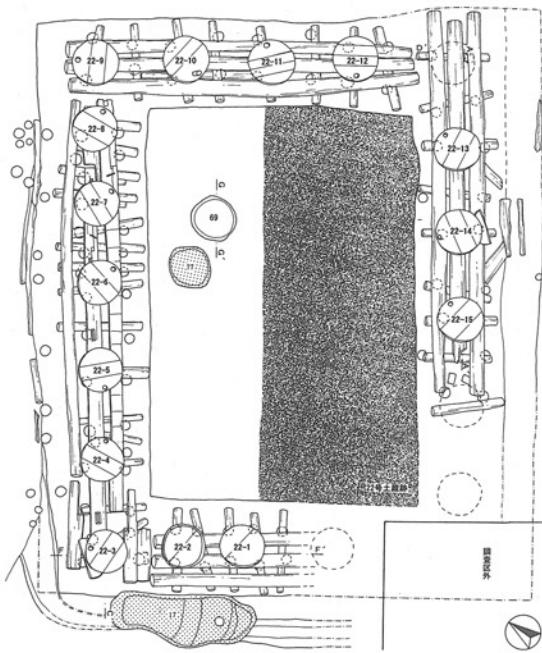
8 木簡の釈文・内容
9 早稲田高等学校新第二号館
10 今回の調査は、学校法人



「樽地形」「算盤地形」復元図

- (1) 「指□町」 (他に屋号・焼印アリ) 径450×高610×厚30 061
 (2) 「□□油□」 径450×高610×厚30 061
 (3) 「□□五 □□」 (他に屋号・焼印アリ) 径450×高610×厚30 061

これらの樽は同一規格の杉材で作られており、「油新」「改詰」「小松□改」などの焼印や、井桁菱に「二」などの屋号が記され



22号遣構遺構図

ている。また、穿孔された蓋板や、内面に和紙を貼り漆を塗布した痕跡が見られることから、油樽が転用されたと考えられる。溜池遺跡や小石川後楽園遺跡から検出された樽地形の樽にも「油新」「改詰」の焼印や「井桁菱に二」の屋号が見られた。

9 関係文献

学校法人早稲田高等学校・株式会社大成エンジニアリング『馬場下町遺跡』(1100年)

(小野真美)